

支協派 第1号

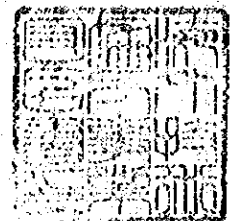
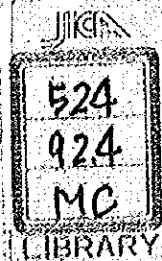
ナイジェリア国における放射線
医学の指導を担当して

昭和38年2月

中近東、アフリカ技術協力計画による派遣専門家

立 野 育 郎
タツ ノ イロウ

海外技術協力事業団



調査統計課

国際協力事業団

受入 月日 '84. 3. 22	524
登録No. 01224	92.4
	MC

目 次

1. ナイジェリア国の医療体系	1
2. ナイジェリア国の医療水準と、海外よりの技術援助	2
3. ナイジェリア国の一般保健状態	3
4. ナイジェリア国の放射線医学の一般、ならびに私の指導 内容について	4
5. 結 語	6

JICA LIBRARY



1064904C4J

私は、1962年7月26日より同年10月25日の3か月間、Nigeria 国の首都 Lagos において、放射線医学の指導を担当しました。これは、政府事業の一環として行われています。中近東アフリカ技術協力計画に基づいて、海外技術協力事業団より、該国に対し初めての医師として派遣されたものであります。

私の指導業務は、主として Lagos の General Hospital の Department of Radiology においてなされました。

この3か月の短期間において、業務の傍ら実際に私の見聞出来たナイジェリア国の医療の実情を中心として、ここに報告いたします。

1 ナイジェリア国の医療体系

政府には、Federal Ministry of Health があり、Minister of Health は Nigeria 人であるが、Medical Adviser がいて、それは英国人であつた。

次に、医療行為を行う医師には Medical Practitioners の登録が必要である。しかし、医療行為の中、医療は完全に分離されている点は、欧米諸国のそれらと同じで、医薬品は、殆んど欧米のもの、特に英国製のものが豊富である。

保険制度はなく、ただ政府機関の職員に対する医療については、無料でなされている。

2. ナイジェリア国の医療水準と、海外よりの技術援助

国営の医療施設としては、少数ではあるが、Federal Ministry of Health 直轄の General Hospital がある。これは、わが国の国立病院に相当するわけである。Lagos のものが、最高の規模を有している。また Lagos には、国営の病理や生化学の検査設備がある。

医師教育機関としては、IBADAN University College の医学部があり、一昨年始めて Graduate を出した。また、ここには附属病院がある。従つて、現在の Nigerian doctors の大部分は、主として英國の医科教育を受けた人々で、その質は概して良好である。また、1962年10月より Lagos に Lagos University College の Teaching Hospital が開院された。

その他、Lagos には、看護婦、歯科技工師の養成機関があり、また最近には Radiographer になるための学校 (X ray school) が開校された。

開業医の数は微々たるものである。

Nigerian doctors は各科とも極めて不足している現状である。因みに、Nigeria 人の Gynecologist や、Radiologist は、いずれも2~3人と云つたようなわけで、Gynecologist に関連して、この国は、出生数が多く、Lagos には General Hospital と同じ位いの性格を持つ国営の Maternity Hospital (General Hospital には産婦人科はない) があり、最高級の設備を有しているのであるが、Nigerian gynecologist がこのように少数では、その機能を十分に発揮出来ないようであつた。

しかしながら、世界各国より、多数の医師がいわゆる Overseas officers として各科に赴任して来ており、医療の援助に従事している。

これらの Overseas doctor は、私のような立場と異なり、給料は Nigeria 国より受けている。

国営の病院は、いずれも急患を除いて、受診の appointment が必要とされている。

3. ナイジェリア国の一般保健状態

現置が根強く古い時代の名残りとしてはびとつているので、疾病の統計はつまびらかでない。

伝染病として有名であつた黄熱病は、殆んどその姿をひそめたが、マラリヤは依然としてふりびしている現状である。赤痢などの伝染性腸疾患も多く、また、結核患者のばつこを許している。「らい」は、その正確な実態を握むことは出来ないうが、相当の高率に罹患者がいるようである。胃潰瘍は非常に少ないが、十二指腸潰瘍は多い。「がん」は、どの部位についても、先進国に比し一般に少ない模様である。

各種、細菌性、Virus 性疾患に対する抵抗力は可成り低いようである。これらは、衛生設備の不良、衛生知識の低いこと、食生活の不合理、高温多量の悪環境に由来するものと思われる。

一般住民、特に乳幼児の栄養状態は悪く、また、平均寿命は40才過ぎの模様である。

4. ナイジェリア国の放射線医学一般、 ならびに私の指導内容について

未だ、アイソトープの導入はなく、従つて、X線装置のみ、それも診断のみに限られている。これ等装置はすべて英国製のものである。すでに述べたようにRadiologistの数は極めて少なく、従つて、他施設とかけもちで勤務している現状である。そのX線診断は、他病院ないし他科からの依頼によつてなされ、それに返答する形式を採つている。

Radiologistの不足に対して、Radiographerはその数も多く、また主として英国で多年にわたる教育を受けた人々で、その質は、わが国のRadiographerより相当の高水準にある。

この国の放射線科勤務の人々は、放射線防禦に対して極めて無関心であつたので、嚴重な注意を喚起した。X線診断も、胃、胸部疾患に限られたきらいがあつたが、私は、喉頭、気管支造影を始めとして、ミエログラフィー、子宮卵管造影、腎盂造影、胆嚢造影などの造影と、それら読影の指導をも行つた。また、特にCaseの多い胃、十二指腸疾患に対しては、その粘膜造影により、早期診断の可能なることを繰り返しdemonstrationした。

アイソトープの導入が皆無なので、平和利用の一環として、これによる診断ならびに治療、特に悪性腫瘍に対する放射線治療の威力を力説して、それらの導入の必要性を説いた。

しかし、先ず、Radiologistの養成が先決問題であり、当分、強力を外国からの援助を必要とすると思われる。

5 結 語

独立2年、この国は目下国づくりに懸命であり、各分野において、目ざましい発展を遂げつつある。そのために、目下、外国からの技術援助も強力に必要とされているようであり、事実現とすべての分野における外人の進出が目ざましい。

これを、医療の方面でみると、先ず、衛生設備の改善と、衛生知識の普及、病院施設の拡充、強化をさらに必要とし、一方、医師の絶対数の不足を解消すべく、医師の養成が目下の急務である。また、痛感されるのは、基礎医学分野、伝染病などに関する研究所の設立など、研究部門の開発が望まれる。特に、IBADAN University College は、優秀なる設備と、すばらしい環境を誇る西アフリカ随一の大学であるので、今後期待する所が大である。

放射線医学の領域に関しては、放射線防禦対策、アイソトープの医学的利用、特に悪性腫瘍に対する放射線の利用が今後に残された大きな課題と云えよう。

